

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	蔵王
活 動 項 目	先進地視察・研修会開催 <u>研修会参加</u> ・その他（ ）
年 月 日	令和元年11月18日
参 加 者 名	尾形みち子 谷江正照
視 察（ 研 修 ） 地	滋賀県大津市
目 的	基礎自治体の行方についての研修
調査（研修）項目等	講 師：元読売新聞東京本社編集委員 青山彰久氏 テーマ：自治・分権の志はどこへ行ったのか —基礎自治体の行方を考えながら—
概 要	<p>○地域とはなにか、国家行政の末端としての地方ではなく、人々がともに暮らす場としての地域の視点を取り戻す必要がある。</p> <p>○地方分権と分権型社会を地域の現場から捉え直す必要がある。</p> <p>○人口減少、これから都市と農産漁村の関係、地域と自治体のかたちをめぐる議論が必要。</p> <p>○複数の基礎自治体で構成する圏域の新設する法制化論をどう考えるか。</p> <p>○地方公共団体が新たな技術を基盤として、多様な主体と連携し合うネットワーク型社会を構築し、それぞれが持つ情報を共有し、資源を融通し合うなど、地域や組織を越えた連携の必要性。</p> <p>上記の文言が記載された資料を基にしたセミナーでしたが、当たり前すぎる問題提起や、言い尽くされた普遍的な論理に終始し、人類始まって以来の状況と言われている、現在の日本の少子化高齢化に置かれた基礎自治体の行方や課題解決に結びつく特</p>

	<p>効率的な施策や実施に向けた取組みの道のりは長く難しいと感じた研修でした。</p>
<p>所 感</p>	<p>東京への人や政治、経済、資本、物の一極集中。</p> <p>日本の人口約3割が集中する東京は一番出生率が低い都市。しかし現在も地方から人を呼び込む状況は変わりません。</p> <p>人は、家族や集団を構成する大切な存在です。</p> <p>消費者であり、生産者であり、納税者であり、ボランティア活動や地域を活性化する取り組みにおいて、多面的で自治体を構成するに欠くことのできない一番大切な財産、いわゆる人財です。</p> <p>高度成長期の礎になった兄弟3人以上の人口増時代と違い、一人っ子が多い現在、その一人の子供を、大学や専門学校等への進学のため都市に送り出すことが晩婚化・未婚化・少子化の始まりと感じます。</p> <p>また、都市圏に送り出した子女が故郷に回帰しないことによる空き家の増加や、故郷に残る子女不在の高齢の親の生活や介護にかかる公的扶助や補助の増加などの様々な課題の大きな要因の一つと感じます。</p> <p>東京などの大都市が農山漁村から、人という人財を吸い寄せている状況やその社会構造を変えていく事が、人口減少や少子化、空き家対策に苦慮する日本全体で今すべき事と考えます。</p> <p>その様な取り組みやこれからの基礎自治体の在り方に資する知見が少なかったことは大変残念でありましたが、逆に言えばそれほどこの問題の解消が難しいものであることが明らかになった研修でした。</p>